

論文の種類について

会誌編集部

「レビュー原稿の依頼を受けました」とうれしそうに報告してくれたり、業績を提出する際に「解説だから…」と謙遜したりする医師に出会うことがあり、今回は論文の種類について話し合った。

論文の種類について

学術論文とは新しい研究成果であり、一定の構成を持つ論文で、通常学術雑誌に掲載されたものを行い、学術雑誌に掲載されている記事区分には、原著論文、総説、解説、レター、会議録、技術ノートや紹介記事などがある。これらのうち業務上よく目にするものを表にした。

会議録は抄録を掲載したものだけではなく、学会終了後に著者のフルペーパーをまとめたものもこう呼ぶ。例えば日本看護学会論文集は日本看護学会において発表した原稿を論文として作成、投稿し査読を経て発行された冊子である。医学中央雑誌 Web 版上ではこれは原著論文として区分されていた。文献検索ソフトではそれぞれに文献採択基準があり、記事区分「原著論文、短報、総説、症例報告、解説、学会抄録・会議録」などに加え、研究デザイン別に絞り込めるようになっている。また、記事区分はひとつではなく「原著論文/症例報告」のように複数割り付けてある。

表 1. 論文の種類

記事区分	概 要
学術論文 Treatise	新しい研究成果で一定の構成を持つ論文のこと。通常は学術雑誌に掲載されたもの
学会予稿集 Proceedings	学会前に編集された論文の要旨を含む抄録
会議録	学会などの団体が開催する学術的な内容を持つ会議、研究集会における口頭発表や講演などの記録を刊行したもの。 会議前に提出された予稿を掲載する場合と、会議後にフルペーパーと呼ばれる論文を提出する場合とがある。
速報 Letter	研究を論文として発表する前に一部を短く掲載したもの
症例報告 Case report	少数の患者を対象にした治療に関する論文
原著論文 Original article	著者による独創的な研究から得られたもので、科学技術の進歩・発展に寄与する成果・内容を含むことが投稿された学術雑誌の編集者（査読者を含む）に認められた論文。
総説 Review	学術的レビュー：各専門分野の研究動向を展望したもの 解説的レビュー：他分野の研究者などにも理解できるようまとめられたもの
特集	ひとつのテーマに沿って、複数の著者が解説したもの
解説	ひとつのテーマについて説明したもの

記事区分を混載している学術雑誌について

学術雑誌とは「狭義には査読制度を採用し、独創性のある最新の研究成果を伝える投稿論文を掲載する雑誌であり、広義には学術的な内容の記事を掲載する雑誌」と定義されている³⁾。

レビュー誌やレター誌は記事区分を限って発行したものであるが、学術雑誌は一冊に原著論文や特集記事などの記事区分を混載したものが大半で、掲載する記事区分は各誌の編集方針による。

紀要は「本来は、学会や研究機関の会合で発表された講演の記録、または報告事項の概要を収録した印刷物のことを言うが、日本では主として大学や学会などに提出された論文や研究発表を掲載する機関紙として多く用いられている。実際には論文だけではなく、会議の記録や報告なども掲載されていることが多く、学術報告や研究報告の色彩が強い」³⁾。年報とは「事業・研究などに関して年1回定期的に出す報告書」⁴⁾とある。

学術論文は査読制度の厳格な学術雑誌に掲載されていることが投稿者にも利用者にとっても大切である。

参考文献

- 1) 安田裕子. 第5章 雑誌の整理. 病院図書室研究会デスクマニュアル編集委員会編. 病院図書室デスクマニュアル. 静岡: 病院図書室研究会; 2004. p. 37-8.
- 2) 山崎茂明. 第3章 情報の発生と流通. 看護研究のための文献検索ガイド. 第4版. 東京: 日本看護協会出版会; 2005. p. 19-25.
- 3) 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. 図書館情報学用語辞典. 第2版. 東京: 丸善; 2002.
- 4) 新村出編. 広辞苑. 第5版. 東京: 岩波書店; 1998.
- 5) SISTを見る. [引用 2007-3-10]. <http://sist-jst.jp/perusal/index.html>

(文責: 寺澤裕子/関西労災病院)